

阿辻哲次さん

漢字文化研究所所長・
京都大学名誉教授

OPINION オピニオン・スライス SLICE

インタビュー日：平成30年10月9日



撮影 漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）内にて

2010年の常用漢字改定の際、文化庁文化審議会委員として常用漢字追加の選定に携われ、2017年に京都大学名誉教授に就任。現在、日本経済新聞日曜版にコラム「遊遊漢字学」を連載されるなど、漢字文化研究所所長として、漢字の面白さを広めるために、ご尽力されている阿辻哲次さんにお話を伺いました。

——先生が漢字の研究をされるにいつた経緯を教えてください

私は、大阪中崎町出身のシティーボーイで、活版印刷屋の子どもでした。家へ帰ると活字があって、漢字に囲まれている環境にいました。しかし、別に書き取りが得意というわけでもなく、北野高校の時にある先生の薫陶を得て漢文が好きになったんです。一年生のときの漢文の先生が大変ユニークな先生で、北野高校は受験校ですからみんな受験勉強をするわけです。ところが、その先生は、例えばインド哲学という領域のことを日本人が誰一人もやらなかったら日本は困る、とんでもないことになるんや。おまえらみんな法学部や経済学部や工学部や農学部に行こうと考えているようやけど、

誰かはインド哲学をやらんとあかんし、誰かはプラトンやアリストテレスの研究をせなあかんのやということをおおる先生で、私はそれに感化されました。これはおもしろいと思ったわけです。

十五、六の多感なころですからね、その先生がはみ出すことの楽しさを教えてくれて、それが漢文の先生だったので漢文の授業を熱心に聞いていました。

さらに、もう一つのきっかけは漢和辞典です。その先生が、漢和辞典の中からある漢字を部首別に分けろと。例えば「江」は「さんずい」であるとか、「統」は「いとへん」であるとか、漢和辞典からぱっと文字を探すという練習があって小手調べが終わってから、今から本番やと。では「巨」とい

う漢字は漢和辞典ではどこの部にあるか調べろという問題が出ました。うちは印刷屋ですから家の中に活字がずらっと並んでいて、活字の配列というのは、実は漢和辞典の順番なんです。漢字の配列はあいいうえお順は使えません。音読みと訓読みで違いますし、読めない漢字もありますし、3,000種類ぐらいの文字を並べますので、一番合理的な方法は、漢和辞典の順番に漢字を並べることなんです。

そこで、ちょっと待てよ、「巨」は「工」の隣にあったなと。だから、もしかしたら「工」のところかなと思って辞典をあけたらばっちり、手を上げて「工」の部です」と言うと、「おまえ、よう分かったな」と。じゃあ、「与」という字はどこにあると。旧字



体は「與」で、あれは「臼」なんです。うちの活字ケースでは「與」は臼のところ、「興」の隣にありますので、「臼と違いますか」と。先生が出しはる問題は、うちの工場の活字ケースの中のどこにあるかを思い出したらたちどころに分かるわけです。それで、その先生に「おまえは英語も数学もでけへんのに、漢字をやらせたら立派なものやな」と褒められて舞い上がって、そうか、俺は漢字の世界ならこいつらに勝てるんやという自信を持ちました。それが中国文学に進もうと思ったきっかけで、ほんまに生まれた家庭環境によってそう思う道を選んだわけです。

大学に入ってから、中国文学やから、例えば魯迅や李白や杜甫という文学を研究するのがオーソドックスな形ですが、「竹林の七賢」といまして、世の中を避けて竹やぶの中に暮らしている隠者がいまして、大体四世紀ぐら

いの人間ですが、世の中を避けて暮らしているはずの隠者の詩というものが残っています。日本でも西行というのは世捨て人ですが、西行が詠んだ歌が残っていますね。でも、隠者が書いた作品が何で残るのか。おかしな話でしょう。世の中との接触を避けているそんな人の作品が残るはずがない。ところが、実際には西行にしろ竹林の七賢にしろ、いっぱい作品が残っている。そうすると、これはどうも隠者ぶりっ子をしているのであって、本当の隠者とは違うんと違うか、隠者文学の研究ということで彼らの作品を読んでいても、果たして本当にその実態が見えるのか、というのを私は若気の至りで懐疑的に考えたわけです。そのときに私が一番ラッキーだったのは、湯川秀樹先生の弟さんの小川環樹先生が京大で授業をしていらっしゃって、中国の言語学の講義ですが、本当に目から

うろこが落ちる思いの鮮やかな解説をしてくださって、これはおもしろいとそのときに漢字のほうへ行ったわけです。それが大体二十歳のころです。

中国の漢字は王羲之、顔真卿という達筆の書家がいっぱい書いているんですが、書家ではないその辺のおっちゃんおばちゃん、兄ちゃん姉ちゃんが商店街のチラシを印刷するときに文字をとつとつと書いているわけです。だから、名もなき庶民だって文字文化を持っているに違いない。うちの印刷屋はそういう人々から仕事をいただいていたわけですから、有名ではない人の書いた文字を追いかけて、それが卒論の切り口でした。今でも基本的にはそうです。

この漢字ミュージアム^{※1}の展示も有名人の作品はほとんどないです。誰でも知っているような、誰でも使っているような漢字を生活の中でどう使うかというのが基本的なコンセプトで、生涯学習とはそうであるべきだろうと思います。

——我々弁護士の業務に関わる漢字にも、興味深い由来がありますか？

まず、「灋(法)」という漢字がなぜ「さんずいへん」か。実は、昔は人間が考えた事だけで物事を処理するのではなくて、神様のお力を借りてあらゆる事柄を判断していた。これは中国だけではなく日本やヨーロッパでもそうです。例えば日本でも、昔はぐらぐら煮えたぎっているお湯の中に勾玉を

※1 京都市東山区祇園町にある、漢字博物館・図書館の愛称。毎年末に発表される「今年の漢字」や漢字検定でお馴染みの日本漢字能力検定協会が運営するミュージアム。「京都で 見て 触れて 遊んで 漢字の魅力 大発見」をスローガンに、子どもたちだけでなく大人も、漢字の面白さ・奥深さを、体で学び、楽しめるようなさまざまな展示や講座・ワークショップを企画している。

沈めて、そこに素手を突っ込んで勾玉をとり、正直な者は火傷をしない、嘘をついていると火傷をします。それを神明裁判といって、人知の超越したところで判断を下していたわけです。



図は、獬豸（カイチ・解廌）という想像上の一角獣です。こいつが邪惡なものに角をぽんと突き当てる。裁判のときに、AさんとBさんのどちらかが嘘をついているから争いになるので、法廷に獬豸を連れてきて、この獬豸が嘘をついている方をとんと突いて、突かれたほうが敗訴するわけです。敗訴した人間は、そのまま川に流された、つまり水に流された。だから「さんずいへん」なんです。

「灋（法）」は、さんずいと、「去」は「流し去る」こと、上についている「廌」は、カイチ、すなわち神様から判断を委ねられている伝説の神獣です。このように「水」と「神獣」と「去る」という3つの要素があります。ところが「灋」が余りにも難しいので廌の部分を取り去って、さんずいへんに「去」になりました。

それから、「罪」という漢字です。

まず、「無辜の民」という言葉、これは罪のない人という意味です。本来「罪」というのはこの「辜」という字

を書いたんです。この字の下にある「辛」は入れ墨を入れるときに使う針の形です。入れ墨というのは刑罰を施す道具です。日本でも島流しのときに腕に輪っかの入れ墨を入れました、昔の中国でも、罪人に刑罰を与えるときにおでこの真ん中に「惡」と入れました。入れ墨は体に穴をあけてそこに墨を塗っていく。その体に穴をあけるときに使うのが針で、その針の象形文字が「辛」です。だから、無辜の「辜」に使われている「辛」は、刑罰として入れ墨を入れるときに使われた針のことです。上の「古」は「コ」という発音をあらわす発音記号です。このように古くは「辜」だったのですが、皇帝の「皇」と「辜」が非常に似ている、この文字で罪という意味に使うのはけしからんと秦の始皇帝が嫌がったので、我々が今使っている「罪」という字になりました。

この「罪」は、下部分は「非」、上部分はヨコメ（目を横にした形）というのですが、これは古くは「网」という字形で、これにいとへんをつけたら網。「非」は正しくないものですから、正しくないものに対して一網打尽に網をかけることから「罪」となったわけです。

次に「刑」です。これは右側がりっとう（刀）、左側は古くは「井」です。古い字を見ると手枷をはめられている人間が描かれている字があります。

さらに、執行猶予の「執」。これは人間が跪いて手枷をはめられている露骨な象形文字で、捕らえられるという意味です。

「刑」の左側も手枷をはめられている形で描かれている字があって、手枷をはめられている人間に刀で刑罰を

与える。刀で殺すのではなく鼻そぎ、耳そぎをする。要するに、体の一部分に刀を加えてそぎ落とすことが「りっとう」です。部首のりっとうというのは、立っている刀という意味で、だから「りっとう」といいます。

ところで、平成22年の常用漢字の改定の際、法務省から大変強い要求が出てきたものが禁錮刑の「錮」です。「固」というのは、固形、固体、固めるとか非常に意味が広いです。「固」の中に容疑者・被疑者をずっと閉じ込めるための「錮」があるわけです。

それから、このとき名誉毀損の「毀」も要望により復活しました。それまでは「棄」だったのですが今は「毀」が常用漢字に入りました。名誉毀損の「毀損」というのは、「すてる」ということでなく「こぼす」です。

日本の刑務所は、お願いをするときのメモはいまだに「願箋」というんですね「箋」はたけかんむりです。「箋」というのは「ちっぽけな」という意味なので、だから、竹でつくった小さい札のことを「箋」と言っていました。紙ができる前は竹の札に書いていましたので、箋というのはそういう意味です。

——「弁護士」という言葉に関して何か

おもしろい成り立ちはありますか。

「弁」はややこしいんです。今の日本では全部「弁」ですが、まず、弁理士の弁は「辨」です。オペレート、つまり物事を処理するときはこの字を使います。物事を処理するというのは、刀を使って処理するから「辨」の真ん中は刀（りっとう）です。口頭で物を論じるときは「辯」を使います。真ん中に「言」があるのは、言葉によって処理をするからです。それと、花びらの「瓣」。この3種類は

もともと字が違ったんですが、戦後の当用漢字の段階で全部「弁」になった。この「弁」は、もともと空気弁の「弁」です。

弁護士さんというのは、口頭でしゃべって相手を守るから「辯護士」というわけですが、中国語では「律師」です。「律」というのは道です。「律」の右側部分にたけかんむりをつけたら「筆」になります。道をつくるときに筆で図面を描くわけです。そこから物事を全体的に計画することを「律」と言うようになり、だから法律の「律」があるんです。「ぎょうにんべん」と

筆、つまり、小道と筆。ここからこう道を引いてという地面の設計図を描くときの事柄が「律」です。やがて広く行き渡らせるということから「法律」という言葉ができてきます。

——ありがとうございます。我々弁護士が関わる漢字だけでも、これだけの奥深い由来があるんですね。漢字の奥深さを垣間見ることができました。最後に、弁護士に向けて一言いただけますか。

弁護士さんのイメージは、正義の味方になっていただける方。私もどがつ何時足元を掬われるというか、わけ

の分からないところで迷える子羊になる可能性は日常的にあります。例えば、電車で痴漢と間違われる可能性は常にある。万が一そうなった時、当番弁護士さんに連絡してもらおうというのが一番正しい対処方法だと聞きました。そうして誰かが救ってくれないと我々は本当にどうしようもない。弁護士さんは、法律について無知な弱者に対して基本的人権を守ってくださる灯台的存在であると思います。

（インタビュー：桂 充 弘
山 田 敬 子
写 真 撮 影：高 広 信 之）



漢検

にチャレンジ！どこまで解けるかな？

2 級

高校卒業・大学：一般程度
※常用漢字がすべて読み書き活用できるレベル

(一) 次の一線の漢字の読みをひらがなで記せ。

- 1 投資信託の償還期限を定める。
- 2 緒戦は定石を踏んで攻めた。
- 3 風にコート裾が翻る。
- 4 野良に出てせつせと働く。

(二) 次の漢字の部首を記せ。

〈例〉 菜 間 門

- 1 韻 3 克
- 2 龜 4 窠

(三) 次の各文にまちがって使われている同じ読み漢字が一字ある。

上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。

- 1 人間国宝の歌舞伎俳優が大学の公開講座に招かれ、古典芸能に造形の深い学長と対談した。

(四) 次の一線のカタカナを漢字に直せ。

- 1 演説のフクアンを練る。
- 2 序盤から力カンに攻める。
- 3 子供たちをイツクし育てる。
- 4 剣や鏡を青銅でイる。

準1 級

大学：一般程度（約千文字）

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。

- 1 1～2は音読み、3は訓読みである。
- 1 古戦場に夏草が茸茸と生い茂る。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。

- 2 井蛙以て海を語るべからず。
- 3 拾一枚でちょうど良かった。
- 1 増上慢が師匠のゲキリンに触れた。
- 2 歴戦の猛者にゴして堂々と戦う。
- 3 サンゴシヨウの碧い海に潜る。

(三) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分に漢字で記せ。

- 1 野にイケン無し。
- 2 ブンボウ牛羊を走らす。
- 3 オウム能く言えども飛鳥を離れず。

1 級

大学：一般程度（約六千文字）

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。

- 1 1～2は音読み、3は訓読みである。
- 1 知情の悖反が生裂罅を生む。
- 2 民をして盼盼然たらしむ。
- 3 聞く者為に襟を沾す。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。

- 1 御仏の胸元をヨウラクが飾る。
- 2 わざと要点をボカして話した。

(三) 次の1～2の意味を的確に表す語を、後の□から選び、漢字で記せ。

- 1 繰り返して行う。また事理を研究する。
 - 2 似たようなものを引き合いに出す。
- かんばい・じんえき・ていひ
ひぎ・ひほ・ふくよう
ほうじよ・ぼうだ

※解答はP94